

核兵器の廃絶・核戦争阻止・被爆者支援の運動を、あなたもごいっしょに

佐賀県原水協ニュース

2010年2月2日発行 佐賀県原水協事務局作成 第38号

事務局電話0952-31-7711 FAX0952-31-7713(佐高教組内)

<http://sky.geocities.yahoo.co.jp/gl/gensuikyosaga>

「署名、取り始めたら、楽しくなった」

2010年九州・沖縄ブロック原水協学校 in 佐賀



講演する土田弥生さん

九州・沖縄ブロック原水協学校が1月30日(土)・31日(日)の両日、佐賀市「龍登園」にて行われ、九州・沖縄各県より75名が参加しました。会場の龍登園にお勤めの方々事前に核廃絶署名を依頼していたところ、50筆の協力がありました。

初日は、土田弥生さん(日本原水協事務局次長)より核兵器廃絶に向けた国際的な情勢を語っていただきました。核兵器をめぐる現状について土田さんは「核兵器のない世界を求める動きには制約があり、それが『核抑止論』だ。日本が自国の安全

保障を核兵器に頼っている、核兵器はなくなる。日本のあるべき姿は、被爆国として核兵器全面禁止を主張することであり、『核の傘』への依存をやめて憲法と非核三原則に基づく外交を展開すべき」と強調。そして、「核兵器はいらない、なくそうの声を示すため、日本原水協は1000名の代表派遣を5月におこなう。世界中で反核署名がすすんでいるが、日本の運動が世界を励ましている。ニューヨークに参加する人を先頭に、1200万筆の署名目標を達成しよう」と呼びかけました。



発言する汐待和子さん

引き続き、特別報告として沖縄より名護市長選挙をたたかった教訓、宮崎より住民6万筆を集めた都城市のとりくみの報告をおこないました。長崎からはNPT再検討会議に参加予定者ひとりひとりから決意表明が出され、年賀状のあて先を活用して署名を頼んでいる話や、労働組合を代表して参加する藤原由紀子さんは、「いままで様々な署名を仕事として集約してきたが、他人事だった。しかし、今回は自分が先頭にたって街頭に立ち、署名を呼びかけている。取り始めたら楽しくなってきた」と語りました。また、佐賀からNPTに参加する汐待和子さんは「自分で5千筆を集め、周りを動かしていきたい」と決意を熱く語りました。

二日目は原子力発電に関わる課題について坂本洋さんからの

報告と、ミサイル防衛問題について冨塚明さんから報告がありました。最後に、今回の学校に参加した方の中で、5月にニューヨークへ参加する予定者の紹介と決意表明をおこない、激励の拍手に包まれました。

